

F-34 現代女子大生（家政系・人文系）の意識と行動に関する実態調査 第1報

杉野女子大家政 ○鈴木美和子 慶応義塾大学大学院経済 武長脩行

杉野女子大家政 横山光子

目的 現代の青年は、高度経済成長期に成育し、その豊かさを当然のものとして享受してきた。大学進学率も40%に達し、高等教育が大衆化している現在、大学生の意識、行動様式は多様化していると言えよう。しかし多様化が果して、どの程度進行し、どのような方向性をもっているかは明確ではない。そこで同世代の中の女子大生に焦点を絞り、①彼等にとって大学とは何か ②職業観 ③結婚観 ④男女平等観等の意識および行動の実態調査を行った。

方法 調査対象…都内の大学（共学4校、女子大6校）短大（8校）に通学する女子大生 調査方法…質問紙による直接面接法 サンプル数…有効サンプル559 調査期間…昭和52年11月10～12月10日 集計方法…単純集計、クロス集計 ①～④の分類別の各カテゴリ－支持数および支持率を単純集計し、さらに属性と行動とのクロス集計、また意識のアイテム間とのクロス集計を行った。

結果 属性の中でも、学部（学科）、学年（年令）、居住形態（自宅、下宿、寮）によって、意識の差異があらわれる。他方、意識と行動との相関をみると、意識の多様化は行動とかなりずしも対応してはいない。つまり現代の女子大生にも意識と行動の間に様々な深淺のギャップが見られた。